

ひがししょうちいきのうぎょうしゅうだん

東條地域農業集団

～子供と心豊かなむらづくりと儲ける農業開始～



農事組合法人 小豆島 設立



子どもたちの田植え体験

経緯

- 昭和58年、基盤整備を契機に農地の受託者を組織化するため、集落営農組織を設立。
- 平成14年に青年部を創設。エコファーマー認定を取得、独自ブランド米生産団体として農村環境保全活動に取り組む。
- 令和3年、農事組合法人「小豆島」を設立し「儲ける農業」に着手。

取組内容

- 減農薬・無化学肥料栽培による安全・安心なブランド米「安田の郷」を栽培。ドローンを使った共同防除も開始。
- 収穫祭の開催や産直市場「ファームステーション安田の郷」の開設、農家食堂の運営。
- 地元の園児・児童を対象に農作業体験や「どろんこ祭り」、食育活動を実施。
- 防護柵等を設置して獣害対策。
- 儲ける農業として長命草、そら豆、キュウリ、等の野菜を栽培。

活動の効果

- 独自ブランド米「安田の郷」は、毎年大人気で早期に完売してしまい生産が追いつかない状況である。
- 米やさつまいもの農作業体験や農産物を利用した食育イベントを通じ、地元の子どもたちの情操教育に貢献している。
- 柵で獣害を防ぎ、自作の箱罾などで毎年多くのイノシシを駆除できている。

応募団体からのアピール・メッセージ

「安田の郷」は、農家の顔と栽培方法が分かり安心して買うことができると消費者から信頼されている。今後も期待に応えられるように栽培技術をさらに向上させたい。

小豆島町安田甲845-3 Tel: 0879-82-2333

ごとうがいしや

まめまめびーる(合同会社ナカタ)

～小豆島×ビール＝「 」～



大麦の収穫



定番4種と季節限定商品

小豆島産原料100%
「SHODOSHIMA100」

経緯

- 自然豊かな環境に魅了され、小豆島の素材や環境、伝統を活かしたビール醸造(酒税法上は発泡酒に分類)を平成30年に開始した。
- オール小豆島産のビールを造りたいという思いから、地元農業集団と連携し麦芽とホップの栽培も始めて令和3年春ついに完成した。

取組内容

- 小豆島の素材を活かしたクラフトビールを製造。柑橘、醤油のもろみ、ハーブ、米、麴など、島の農産物、特産物を使った定番4種と季節限定商品10種を発売。
- 農業集団「小豆島 陽当の里 伊喜末」と連携し、耕作放棄地で小豆島産麦芽・ホップを栽培。
- 麦芽、ホップ、水、酵母、すべてが小豆島産のビール「SHODOSHIMA100」を発売。

活動の効果

- 小豆島産の醤油のもろみを使った黒ビール「くろまめまめ」が、「かがわ県産品コンクール 知事賞」を受賞。品質の高さが認められ、本来廃棄物となるもろみを活用した点も高い評価を受けた。
- 観光客のお土産として人気があり、ふるさと納税の返礼品にもなっている。
- 原料がすべて小豆島産のビールは県内外から需要があり、称賛されている。

応募団体からのアピール・メッセージ

島内の他業種(飲食・宿泊業等)の方々と連携してアイデアを出し合いながら、より幅広く島の素材を活用してビールの魅力を深めていきたい。

かぶしきがいしゃ

さんなんえいのうくみあい

株式会社 山南営農組合

～限界集落の未来を守る！全員参加型営農組合～



小蓺米



農村レストラン



小蓺の棚田

経緯

- 山間部の小蓺は良質な農産物の栽培に適した自然豊かなところだが、耕作放棄地の増加が深刻化しており、担い手確保や地域活性化の取り組みが求められていた。
- ほ場やライスセンターの整備をきっかけに、住民全員参加を原則とした集落営農組織「山南営農組合」を設立した。

取組内容

- 地域ブランド米「小蓺米」の生産・販売。
- 9部会制による組合員の生きがいづくり。
- 産直、レストランに加え農家民泊2棟を開業。
- 地元の高校と連携し、HP「晴ノチコミノ」を開設。集落の中心部に地域案内板を設置。
- 地域内にある希少糖研究センターと連携し、「ズイナ」の栽培や希少糖を含む加工品の生産、販売を行う。

活動の効果

- 組合員全員が「農村レストラン部会」など9つある部会のいずれかに所属しており、得意分野を活かして活動することによって、一人一人が地域で必要な存在であるという「生きがい」を感じている。
- グリーン・ツーリズムや農家民泊は好評で、体験者は小蓺の魅力に満足してくれている。

応募団体からのアピール・メッセージ

小蓺の美しい原風景を広く知ってもらうため、「棚田ウォーキング」を企画したい。「みんなで楽しみながら」という姿勢を大切に、「自分たちの村は自分たちで守る」をモットーに地域活性化に取り組める仕組みづくりをしていきたい。

まるか い い
丸岡生き生きクラブ

～集落の豊かな自然環境を守る！～



集落住民が大集合！して用水路清掃



定期的に行われる役員会

経緯

- 農地・水・環境保全活動に取り組むため、丸岡営農組合が中心となって結成。
- 丸岡集落の豊かな自然環境を守るため、農業者以外にも様々な立場の住民が一体となって活動する。

取組内容

- 4月 用水路清掃
- 5月 ため池堰堤草刈り、サツマイモ植付
- 6月 用水路清掃
- 7月 ため池堰堤草刈り
- 8月 コスモス畑耕耘、播種
- 9月 ため池堰堤草刈り、サツマイモ収穫
- 10月 コスモス畑周辺草刈り
- 11月 コスモス交流会
- 12月 ため池堰堤草刈り
- 1月～3月 用水路・水門補修

活動の効果

- コスモス交流会は来訪される方が少しずつ増加し、地域の活動団体も新たに生まれている。
- 農業者以外にも様々な立場の住民と一緒に活動することで、丸岡集落の豊かな自然環境を守れている。

応募団体からのアピール・メッセージ

役員や住民の高齢化が不安材料ではあるが、若手の後継者を育てつつ活動内容を再点検して、有効かつ無理のないものに集中しながら取り組んでいきたい。

みつごいしいけしげんほぜんくみあい

三ツ子石池資源保全組合

～地域の人みんなで明るく・楽しく～



田中幼稚園芋ほり大会



農地を活用したコスモスの植栽

経緯

- 農業従事者の減少・高齢化などにより農家だけでは地域内の農業インフラ及び農業を守ることが困難になってきた。
- 地域コミュニティにおける交流も希薄になっており、地域一体となって地域資源である農地、農業インフラの保全管理ができる体制の整備が必要となった。

取組内容

- 住民アンケート結果を踏まえた体制整備構想を作成し、地域資源の保全管理、農業後継者の育成・確保及び地域の連携を柱とした活動に取り組む。
- 隣接する活動組織と一緒に主要幹線道沿いの農地70aにコスモスを植栽。
- 地区内の幼稚園児を対象に「親子連れ芋ほり大会」を実施し、ドローン撮影による「思い出提供」に取り組む。

活動の効果

- 集落間のつながりが深まり農家と非農家の交流が促進された。
- コスモス植栽は、県の事業である「さわやかロード」活動にも発展して近隣自治体からも評価されるようになり、環境保全の意識も高まった。
- 26年ぶりに新嘗祭の「献穀田」が受益地区内で選定された。

応募団体からのアピール・メッセージ

この活動を可能な限り三木町全体に広げるべきと考えており、高齢化等による活動継続が難しい組織に対する支援(区域編入等)を予定しています。

いなぎ けんぞう
稲木 健造

～お米作りで農家民泊と化粧品原料供給～



小学生の田植え体験



海外顧客と五右衛門風呂体験

経緯

- 平成25年度から県独自水稻品種「おいでまい」の低農薬栽培に取り組んできた。
- 高松市の化粧品製造販売会社と連携し、特別栽培に切り替えた「おいでまい」を化粧品の原料として供給することになった。
- 訪日客の増加によるニーズの拡大を受けて令和2年に農家民泊を開業。

取組内容

- 株式会社「アイム」の基礎化粧品「ライスフォーース」の原料として出荷するにあたり、エコファーマーの認定を受け、減農薬、有機肥料の使用など安全性を重視した特別栽培にシフト。
- 「アイム」が安全性のアピールとブランド確立のため、海外の販売代理店を招待する時に特別栽培の方法や管理状況を説明するとともに、農泊を提供。
- 農家民泊「稲木家」を開業し、農家体験希望者を受け入れ。

活動の効果

- 化粧品の原材料に使用する特別栽培米作りは、農水省の6次産業化・地産地消費に基づく「総合化事業計画」の認定を受けた。また、かがわ産業支援財団の6次産業化へのサポートを受け、米の新たな活用法を見いだした。
- 農家民泊で農業体験や五右衛門風呂に入ってもらするなど綾川町の自然を体感してもらい好評を得ている。

応募者からのアピール・メッセージ

長期的な視点で、農業を通じた地域経済の活性化や農家の継承者問題の解決を目指し、さらには香川県の自然と文化を世界に向けて発信していきたい。

のうだひがしかんきょうほぜん かい
苗田東環境保全の会

～住民活動で苗田東の伝統と故郷愛を将来へ～



環境保全のPRポスター



親子で清掃活動

経緯

- 昭和42年に構造改善事業で基盤整備を行い農業中心の地域づくりをしていたが、世代交代や少子化が進んで住民同士の交流が希薄になり、伝統行事の継承が難しくなっていた。
- 地区の将来を担う子供たちを交えて環境保全活動を行うことにより、以前のような交流の盛んな地域づくりに取り組むことにした。

取組内容

- 子供会と連携して道路沿いに投げ捨てられた空き缶等のゴミ拾いを実施。
- 夏休みに子供たちが環境保全や苗田東のPRポスターを作成。9月に象郷農業構造改善センターに展示した後、防水加工して青年部を中心とした地区住民が、ゴミの投げ捨ての多い幹線道路沿いに設置。

活動の効果

- 子供を中心とした活動に大人と一緒に参加することで地区住民の連携が密になり、地元を良くしようとする意識が向上した。
- 地区の伝統文化である獅子舞に子供達が進んで参加するようになって伝統文化の継承につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

活動内容を発展させるアイデアを誰もが提案できる環境を整備し、若い世代の自主性を重視した活動を行って地区を発展させていきたい。

まんのういけとちかいりょうく
満濃池土地改良区

～満濃池1300年の技術と歴史を未来へ繋ぐ～



毎年6月に催される「ゆるぬき」



かりん会館で満濃池の歴史教育

経緯

- 長い歴史のある満濃池の管理者は時代とともに移り変わってきた。管理規定に基づいた組織的な排水管理を行うため、昭和26年に「満濃池土地改良区」を設立した。
- 満濃池の歴史と先人たちの偉業を広く伝えるため、ボランティア団体などの文化活動を支援するに至った。

取組内容

- 複雑な水利慣行を次世代に伝えるため、組織体制を整えて後継者を育てている。
- アジア・アフリカ地域の技術者のJICA研修や県外の土地改良関係団体の現地視察を積極的に受け入れている。
- 郷土学習の一環として見学に訪れる小学生に満濃池の歴史や文化を伝えている。

活動の効果

- 有志が満濃池の伝説をテーマにした紙芝居を町内の小中学校等に配布したり、町が満濃池東側にあった町道を遊歩道に整備するなど、満濃池を核とした多面的な活動が広がっており、地域活性化に寄与している。

応募団体からのアピール・メッセージ

弘法大師空海ゆかりの満濃池は、地域農業だけでなく渇水時の送水や夏の風物詩「ゆるぬき」に多くの観光客が訪れるなど、広く県下に恩恵をもたらしています。

奨励賞

かがわけんりつたどつこうとうがっこうけんちくか

香川県立多度津高等学校建築科

～若き技術者達が集落を守る！～



箱罾制作中



離島(佐柳島)に設置



イノシシ肉の加工品開発中

経緯

- 平成28年以降イノシシによる農業被害が深刻となり、多度津町は対応に追われていた。
- 平成25年に町と包括的連携・協力に関する協定を結んでいたことから依頼を受け、令和2年1月に建築科生徒有志による「箱罾製作プロジェクト」が始動した。

取組内容

- 部活動の一環としてイノシシ捕獲用の箱罾を製作。製作にあたっては、入手が容易な市販の材料で、複雑な加工は避けて軽量化するなどの工夫を凝らした。さらに捕獲されたイノシシで強度実験を行うなどして改良しながら実用に足る品質に仕上げた。
- ため池の浄化や、施設のライトアップ、休憩小屋の建設などの活動を実施。

活動の効果

- 令和2年3月に完成品2基を町に寄贈することができた。実際に、既製品の運搬・設置が難しい離島で猟友会に使用してもらい、微調整を重ねて体重80kgのイノシシを捕獲することに成功した。(8月26日時点で3頭捕獲)
- 捕獲したイノシシの肉を有効活用するため、校内で加工品の開発に着手した。
- 地域の活性化や問題解決に貢献している。

応募団体からのアピール・メッセージ

引き続き箱罾の改良や追加製作に加え、捕獲したイノシシの肉を有効活用して6次産業化も含めた取り組みを進めていきたい。

いっばんしゃだんほうじん
一般社団法人サンフラワーまんのう

～ひまわりで町おこし!!黄色の魔法がかかる町～



どこでもドイベント



種子の収穫



イベントでの商品販売

経緯

- 平成元年度から地域おこしとして町内の農業集団がひまわり事業に取り組んでおり、平成28年度からは地方創生事業として町が主体となって活動していた。
- 令和3年度より、更なる観光振興と6次産業化による農家の所得向上を図るため「一般社団法人サンフラワーまんのう」を立ち上げ、町や農家と連携しながら町おこしを推進していくことにした。

取組内容

- 「ひまわり満開フェア」として、ひまわり振興協議会と連携して7月に満開になることを県内外に広くPR。ひまわり開花時にJR四国の観光列車が臨時停車するなどコラボイベントを開催。
- 町内の子どもたちが種まき、収穫、搾油を行う体験学習の実施。搾ったひまわりオイルは給食で活用。
- 町が整備した「ものづくりセンター」を核としたひまわりオイルの製造販売。

活動の効果

- 「まんのうひまわりオイル」が、平成30年度の「かがわ県産品コンクール 知事賞」、「優良ふるさと食品中央コンクール 農林水産大臣賞」を受賞し、品質の高さを認められた。
- ひまわり畑を訪れた人々がSNSに投稿することでまんのう町の知名度が向上した。
- 子どもたちが農業の楽しさを知り、地域への愛着が深まった。

応募団体からのアピール・メッセージ

多くの人と協力しながら、ネット販売を強化するなど積極的な販売戦略を立てて事業を発展させ、ひまわりオイルを地域ブランド商品として定着させたい。

奨励賞

しま みね げんふうけい まも かい
島が峰の原風景を守る会

～初めて会った人達もいつか笑顔のソバづくり～



復活したソバ畑



収穫したソバでソバ打ち体験



ソバの商品化

経緯

- 島が峰地区は標高800mの山あいにある。かつては高冷地野菜を盛んに栽培していたが、人口減少・高齢化に伴い次第に衰退して荒地になっていった。
- 状況を憂いた数名の同志が、2016年より荒廃地の開墾から始め、寒暖差を利用したソバ作りを開始した。

取組内容

- 荒廃した農地を開墾し、かつての風景を取り戻すために順調に耕作面積を拡大している。
- グリーンツーリズムの一環として、開墾した農地の一部を利用して「ソバの栽培体験」を実施している。
- ソバの花が満開となる9月下旬頃に「ソバの花見会」を開催し、打ち込みソバの無料接待やミニコンサートなどを行っている。

活動の効果

- 現在3.2haの荒廃農地を復活させており、徐々にかつての風景を取り戻しつつある。
- 復活したソバ畑として県内外で知名度が上がり、若い人も活動に参加するようになって活気があふれてきた。
- 見物客が増え、棚畑の美しさに魅了された写真家も多く訪れるようになった。

応募団体からのアピール・メッセージ

この地の食文化や風景を次世代に残したいという思いで、会員一丸となって取り組んでいます。今後は6次産業化として乾麺ソバの製品化等に注力していきたいです。

ほのやまちいきほぜんかつどうそしき

帆山地域保全活動組織

～ほのやまロード、ひまわりに託す夢と希望～



ひまわり団地



地元小学生による総合学習

経緯

- 営農と農業インフラの維持・管理を行っていたが、農業の担い手確保のために、新たに「農事組合法人ほのやま」を設立した。
- 農作業を地元土木建設業者に委託して担い手とする一方、他の組織と連携して地域資源を活かした6次産業化などに取り組んで地域の活性化を目指す。

取組内容

- 集落の農道、ため池、水路などの保全や体験学習を実施。
- ひまわりオイル、ドレッシング、米、焼酎など多数の商品を開発。ひまわりの搾りかすを飼料にしたひまわり牛も誕生し、コロッケや肉うどんを道の駅で販売。
- 約100万本の開花にあわせ「ひまわり祭り」を開催。ウェディングイベントやフォトコンテストなどを実施。

活動の効果

- 県内企業や地元の畜産農家と連携し、ひまわりを活用した特産品が多数誕生した。昨年デビューしたひまわり焼酎「みちる」も非常に好評で、今年は増産することができた。
- 「ひまわり祭り」は地域住民の世代を超えた交流を促進し、まんのう町のイベントに発展した。今では県内外から延べ5万人余りが訪れる夏の風物詩になっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

「自分達の集落を自分達で守る」ための活動に取り組み、後継者を育てて更なる地域の活性化を目指したい。

仲多度郡まんのう町買田277-1 Tel: 0877-73-5371(事務局 近石)